

とともに、全管区気象台等に「地震火山課」の整備が完了しました。）

- ②関係機関の地震データの一元的収集管理業務を的確に遂行するため、地震火山部管理課に「地震情報企画官」、札幌、仙台、大阪及び福岡管区気象台技術部に「地震情報官」を設置します。

4. 地域における気象業務体制の再編・強化（平成9年3月1日施行予定）

防災機関との連携強化など地域気象サービスを一層充実させるため、5か所の地方気象台等に「次長」等

の組織及び要員を整備するとともに、観測技術の進展、人材の有効活用の観点等から、5か所の測候所を無人化します（各5か所の具体的箇所はまだ決まっておりません）。

5. むすび

厳しい行財政事情の中にはありますが、今後とも、気象業務の発展、課題の解決等のために必要があると判断した場合には、予想される困難を乗り越えてでも、敢えて積極的に組織改革にチャレンジしていくつもりでおります。

日本気象学会1996年度秋季大会シンポジウムのお知らせ 「航空機で観る大気 —航空機で何がわかるか—」

日 時：1996年11月7日(木) (秋季大会第2日目)午後
場 所：名古屋国際会議場(白鳥)レセプションホール
主 旨

大気科学の対象は大気であり、大気を広域にわたって直接観測することのできる航空機観測は大気科学の発展にとって不可欠と思える。技術的にも直接観測技術、リモートセンシング技術、等に大きな技術発展がある。その一方、最近では航空機観測以外でも地上からのリモートセンシング観測、また衛星観測などにより広域にわたる実態観測がかなり可能となってきている。地球科学がシステムとして把握され、現象の多面的な実態把握が必要となり、各種の測器を動員しての観測が多くなってきている現代において、航空機観測によって分かること、航空機観測の持つ意味を再検討し、航空機観測によって得られるあるいは期待される新しい知見、それから開かれる新しい大気科学を展望したい。

プログラム

1. 大気運動の観測
—大気波動の研究と航空機観測—
佐藤 薫 (京都大学理学部)
2. メソ降水観測

—メソ降水雲系の研究発展と航空機観測—
藤吉 康志 (名古屋大学大気水圏科学研究所)

3. 放射構造の観測

—放射に関する最近の話題と航空機観測による検証—

中島 映至 (東京大学気候システム研究センター)

4. 大気成分の観測

—大気成分変動の研究と航空機観測への期待—
吉田 尚弘 (名古屋大学大気水圏科学研究所)

5. 航空機からの雲・降水のリモートセンシング

—衛星観測のための技術実証および衛星検証—
熊谷 博 (郵政省通信総合研究所)

6. 総合討論

司会：中村 健治 (名古屋大学大気水圏科学研究所)

問い合わせ先

〒464 名古屋市千種区不老町
名古屋大学大気水圏科学研究所 中村 健治
TEL：052-789-3497
FAX：052-789-3449
E-mail：nakamura@ih.as.nagoya-u.ac.jp